■道昭(道照)　　僧。民衆教化と社会事業に全力を投入，律令制的仏教，禅，阿弥陀浄土信仰，さらには火葬習慣の先駆者。
どうしょう

舒明天皇即位 629＝　　河内国丹比郡野中郷で，王辰爾を祖とする百済系氏族船史恵釈の子に生まれる。

王辰爾は，553年に，蘇我稲目から「船賦」の記録・管理を担当する船長を命じられ，船史を称するようになり，572年には。来朝していた高句麗使が携えて来た難解な「鳥羽の表」を唯一人読み解いたといい，以後，船史は，蘇我氏の下，船舶・港湾に関わる税，屯倉や貢物等の記録管理，さらに外交に関わる諸業務に従事している。大阪府羽曳野市にある野中寺が船連氏の氏寺とみられる。

・・・・・・ 638＝ **9歳：**

・・・・・・ 641＝12歳：この年，推古朝以来の功績で，大仁の官位を得た船王後が死去。

乙巳の変・・ 645＝16歳：乙巳の変に際し，父恵釈は，炎上する蘇我蝦夷邸から，おそらく自らも関係した「国記」を救い出し，蘇我本宗家滅亡後は，王家に仕える。
・・・・・・ 647**＝18歳：**この年までには，飛鳥寺(元興寺)で得度し，摂論宗を学んだと思われる。

第2回遣唐使 653＝24歳：**_有力氏族の子弟を主とする10数名の学問僧とともに，第2次遣唐使に従って入唐し，玄奘三蔵に師事。**

玄奘からとくに可愛がられて同房に住み，
・・・・・・ 656**＝27歳：**
_経論は極めつくすのが困難な故，禅を学んで持ち帰ることを勧められ，

_仏舎利や多くの経典を与えられて，

朝鮮出兵・・ 661＝32歳：おそらく，***越州を出航するも暴風に遭い耽羅嶋(済州島)に至り，耽羅王子らを同乗させて帰国した第四次遣唐使船で，帰国し，**
・・・・・・ 662＝33歳：**_元興寺東南隅に禅院を建立，請来した舎利経典全てを納め，弟子の育成に当る一方，**
白村江の戦・ 663＝34歳：
第5回遣唐使 665**＝36歳：**この年，中臣鎌足の長子でともに入唐した定恵が帰国するも，死去している。
・・・・・・ 666＝37歳：***この頃から民間を周遊し，社会事業を開始する。**

この間，父恵釈は，小錦下の冠位を得て死去。

壬申の乱・・ 672＝43歳：

・・・・・・ 674**＝45歳：**
_その活躍の舞台は，大和・山背・摂津・河内などの諸国に及び，道昭は新帰朝の化主として，民衆教化と社会事業に全力を投入したと思われる。「続日本紀」道昭示寂伝にみえる宇治橋造橋伝説は，数十年前に道登が架橋したものを，道昭が知識を率いて一新したものと考えられる。その期間は十有余年といわれているから，
・・・・・・ 679＝50歳：***勅に，'凡そ諸の僧尼は，寺内に住し，以て三宝を護れ'といっている時までと考えられる。**

その後の活躍については具体的史料に欠けるが，禅院を中心としての学問修行と弟子の育成に専念していったことはまちがいない。
・・・・・・ 683**＝54歳：**船氏に連姓が賜姓されて船連氏になる。

天武天皇没・ 686＝57歳：

・・・・・・ 692**＝63歳：**薬師寺に招かれて繍仏の開眼講師を務めたといい，

不比等確立・ 698＝69歳：**_大僧都に任命されたと伝えられる。**

道昭没初火葬 700＝71歳：縄床で***坐禅したまま，没した。遺言により，初の火葬となった。**
道昭は，従来，法相第一伝とされてきたが，請来した経典から総合的に判断すると，法相教学ではなく，摂論系に近い。経典類は平城遷都後は右京の禅院に所蔵され，禅院寺本として大切にされて行く。道昭が請来した経典は，筆跡が流麗で，誤字脱字が無いことから，国家によって大事にされ，光明皇后発願による一切経書写の本経としても活用された。1991年の飛鳥寺側の遺跡発掘調査で，出土したものから，道昭が元興寺に建てた禅院であり，木簡に記された多くの僧名は，そこに所属した道昭の弟子とみられている。

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典。新古代史の会「人物で学ぶ日本古代史 1：古墳・飛鳥時代編」で追補，